

新しい時代でも安心して生活できる社会の構築を!!

—2021労働政策セミナー・政策討論集会に83人参加—



—講演の様子— 《写真上》講師 石田連合副事務局長

湯原俊三さん

本川博孝会長の音頭で団結がんばろう!

「政策・制度要求(案)」趣旨説明
左から 田中事務局長 井上執行委員長(日教組)
山崎執行委員長(運輸労連) 里田執行委員長(全国農労)

7月3日(土)、まなびタウンとうはく(琴浦町)に産別・単組役員と組合員、連合鳥取推薦議員あわせて83人(うち女性17人・参加率20.5%)が参加して「2021労働政策セミナー・政策討論集会」を開催しました。

「労働政策セミナー」では、連合副事務局長の石田昭浩さんによる講演と、次期衆議院選挙鳥取第2区予定候補者の湯原俊二さんによる活動報告を、「政策討論集会」では「連合鳥取2022年度政策・制度要求(案)」について討議を行いました。

労働政策セミナー

講演

「コロナウイルス感染症対策における連合の取り組み および分科会への対応」

講師

連合副事務局長・厚生労働省新型コロナウイルス感染症分科会委員 石田 昭浩さん

これまでの新型感染症対策や雇用生活を守る取り組み、分科会の取り組みや、今後の課題などをわかりやすく説明いただきました。

講演内容より抜粋

- 新時代へのセイフティネット拡充が今後必要になる。
- コロナ禍において雇用弱者や誹謗中傷などを生みだしてはいけない。
- 感染防止対策と経済対策の両立をどう取り組んでいくかが今後の課題である。

活動報告

第49回衆議院選挙鳥取第2区予定候補者(連合鳥取推薦)

湯原俊二さん

「政治は国民に正直でなければいけないが、今の政権はそこが欠けていることが問題。大企業・大都市ばかりに光を当ててではなく日本全体に光が当たるようにしないと、いけない。その為には政権交代が必要である」と強く訴えました。

政策討論集会

「連合鳥取政策・制度要求(案)」について

田中穂事務局長と各産別代表より趣旨説明および提起を行いました。

今後の流れは、本日の討議内容を基に修正し、「第8回(拡大)執行委員会」で確認した後、鳥取県知事へ要求し部局交渉を行う予定です。

参加者の声

日教組・鳥取県教職員組合 小谷明寛さん

「『時代の流れだから仕方がない...』本当にそうか?」という湯原さんの言葉がグッと胸に突き刺さった。「政治責任」が「自己責任」にすり替わる、これも「時代の流れ」なのか? 権力者の失敗を「私の責任」とは思えない! 「政治責任」を追及する私の1票を投じたい。

運輸労連・ヤマト運輸労働組合 田代実鈴さん

日頃活動する時に「キーワード」を心で掴もうとしている。それは「組合は神経」や、本川会長の「お互い様」であったり...。今回のセミナーで感じた言葉は「しかたがないのか?」、そして「同調圧力」。いつも心に刺さる言葉をみなさまからいただける場に身を置けていることに感謝している。

6月~9月は連合平和運動強化期間

「連合鳥取ピースウォーク(7月30日・31日に県内3会場で実施)」は次号で報告します



「れんごうの日」
8月5日
(テーマ) #平和運動

■特集■「湯原俊二」総がかり大作戦 —地域協議会で共通認識を図る—
 ~詳しくは“連合鳥取ホームページ” & “各地域協議会Facebook”に掲載~

東部地協発 構成組織の代表者70人と推薦議員5人集い「政策実現集会」開催

7月12日(月)、さざんか会館で、今秋には衆議院選が行われることを踏まえ、「政治が私たちの生活に大きく関わることや、労働組合が政治に関わる意義を改めて学習する」機会として、「政策実現集会」を開催しました。

主催者の村尾昌彦議長は「今年2月から取り組んでいる湯原俊二紹介者カードの引き続きの取り組みと、1区からの支援の輪を拡大していくことが結果に繋がる」と訴えました。

その後、第49回衆院選鳥取第2区連合鳥取推薦候補者の「湯原俊二さん」から、「現政権の国民目線でない政治運営を変えなければならない」ことなど、総選挙に向けた情勢と活動報告を受けました。

引き続き、連合鳥取の本川博孝会長が『働く者・生活者の立場にたった政治勢力の拡大』に向け、連合鳥取に結集する全組合員が湯原俊二必勝に向けて残された3ヵ月を全力で『総がかり大作戦』の取り組みを展開しよう」と述べました。

最後に、組織一丸となって「湯原俊二必勝」に向け、参加者全員による「団結がんばろう!」で集会を終えました。

(寄稿 東部地協事務局次長 伊藤孝明さん)

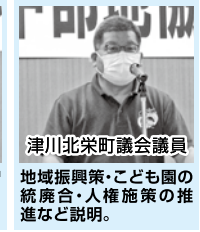
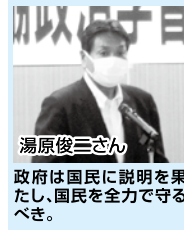


中部地協発 「政治学習会」&「議会報告会」開催

7月2日(金)、倉吉体育文化会館で「2021政治学習会&議会報告会」を55人(うち女性9人、女性参画率16.4%)の参加を得て開催しました。

冒頭、坂本浩憲議長が「いま我々の仲間が様々な困難に直面しながら暮らしを支えてくれている。組合員の声にきちんと向き合ってくださいる議員のみなさん、湯原俊二次期衆議院議員選挙候補の話聞き、より良い街をつかっていくため、知恵を出し合っていきたい」とあいさつし、続けて、県議会議員を代表して興治英夫議員より来賓あいさつを受けました。

その後、湯原俊二予定候補者と、福井康夫倉吉市議会議員、津川俊仁北栄町議会議員の講演(議会報告)を聞き、地域の課題について学習を深めました。



臨席いただいた議員のみなさん
 前列左から/興治県議 伊藤県議他

西部地協発 今こそ学ぼう!

「青女フォーラム学習会」(25人参加)開催

西部地域協議会「青女フォーラム〈青年女性委員会〉」は、6月29日(火)、米子コンベンションセンターにおいて、労働組合基本セミナー「労働組合の必要性」をテーマに学習交流会を開催しました。

冒頭、門西慶和青女フォーラム委員長が「地協の活動の中での交流・仲間作りの必要性」を訴えるあいさつを行い、次に「第49回衆議院議員選挙」の連合鳥取推薦候補「湯原俊二」さんから「団結の必要性」について力強いあいさつをいただきました。

その後、連合鳥取西部地域協議会の佐貫馨事務局長が講師となり、「就業規則と労働協約」「36協定」などの基礎から「労働組合がなぜ政治活動をするのか」、「青年・女性組合員の役割」などについて学習しました。



あいさつする門協委員長

熱心に講義を受ける参加者

「第7期労働大学」(1部・2部 延べ89人参加)開催

《スローガン》私たちの手で政治を変えよう!
 そのために自ら行動しよう!

- ◇と き 2021年7月4日(日)10時00分～
- ◇と ころ ANAクラウンプラザホテル米子
- 【1部/若手組合員・女性組合員対象50人参加】
 テーマ:みんなの応援で桜の花を咲かせよう
 講 師 湯原俊二推薦候補者
 立憲民主党鳥取県総支部連合会 浜田妙子代表
- 【2部/単組代表者対象39人参加】
 テーマ:紹介者カード100%達成に向けて!
 講 師 湯原俊二推薦候補者
 連合鳥取 本川博孝会長

★紹介者カード100%達成に向けた決意表明(産別代表13人)
 ◎参加者全員が桜の花の色紙に応援メッセージを書きました(中央)



【1部】参加のみなさん

【2部】参加のみなさん

青年委員会発 青年委員会役員と「湯原俊二さんとの座談会」開催

7月17日(土)、青年委員会役員9人と『湯原俊二』さんとの座談会を伯耆しあわせの郷(倉吉市)で開催しました。

最初に、湯原俊二さんより「国政状況について」と題した基調提案をいただき、その後、意見交換をし、役員からは率直な意見が出され、充実した座談会を行うことができました。

最後に、山本徳穂青年委員長が「貴重な経験になった。今後の取り組みに活かしていきたい」とまとめました。

【基調提起】 第49回衆議院議員選挙 連合鳥取推薦候補 湯原俊二さん
ご自身の生い立ちから政治家を志すまでの経過に触れながら、



- ①教育関連予算額が先進国の中で一番低い
- ②限定的だった派遣法の適用範囲が広げられ 今では全雇用労働者の4割がいわゆる非正規労働者になり格差が広がっている
- ③政治の透明性が担保されていないことにより税の使い方について不満が高まっているなどの現状の解説や、「税金を納めているのに政治に無関心でいるべきではなく、どういう人を選ぶかで政治が変わる」と述べられました。

【意見交換】 テーマ「若者の政治離れについて」

◎青年委員会役員からの意見(抜粋)

- ①政治は若者を見てくれているのか。
- ②元々政治とは距離があったので今更「政治から離れた」わけではない。
- ③もっとセイフティネットの充実を・・・。



意見交換の様子(左から3番目/湯原さん)

◎湯原俊二予定候補の意見(抜粋)

- ①だからこそ政治の仕組みを変える必要がある。
- ②諸課題を解決しないまま時を過ごしてごまかす今のやり方を変えなければならない。一票には政治を変える力があることを知ってほしい。
- ③学校で教わった公民の授業は野球に例えるとルールを教わるようなもので、ボールの投げ方を習っているわけではない。体を動かして(投票に行つて)ほしい。
- ④主権者教育が必要、愚直に訴えていかなければならない。

【毎月05日は「れんごうの日」! - 8月 -

今月のテーマ:

#平和運動

「公共交通機関で働く人」に感謝!

ツイキャス「あつまれ!ユニオンスクエア」

<https://twitcasting.tv/unionion>



「8月5日17時45分
から第10回、生放送
します!」
スマホパソコンから
アクセスしてね♪

ご存知ですか?

「連合鳥取第3次男女平等推進計画」+1 35

可視化されない「コロナ禍の女性の雇用の悪化」2

一月刊「連合」2021.6「コロナ禍のジェンダー平等課題」より抜粋
前号に続きお届けします



感染の収束が見えない中で雇用の現状はどうなっているかな? コロナ禍は、特に女性の雇いを悪化させている。また、家事・育児の負担も重くのしかかっている。前号に続いて、データを紐解いてみよう。

■図5 女性的実質的失業者数は100万人超

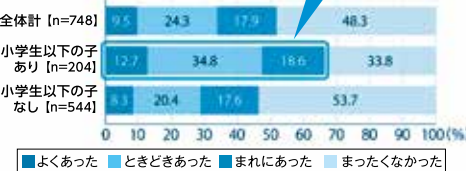


注:実質的失業者:シフト回数コロナ前の5割以下で休業手当も受け取っていないパート・アルバイトの労働者

(出所)公式統計は2月時点の総務省「労働力調査」、実質的失業者は野村総研推計。

■図6 テレワークの実態

テレワーク勤務の際、通常の勤務よりも長時間労働になること



(出所)連合「テレワークに関する調査2020」結果を村尾祐美子東洋大准教授が再集計。

小学生以下の子どもがいる人は長時間労働に

公式統計の「完全失業率」は、男性114万人に対し、女性80万人。しかし、シフトが激減し、かつ休業手当を受け取っていないパート・アルバイトの「実質的失業率」は、女性103万人、男性43万人【図5】。

家事・育児の負担増も女性に偏っている。連合調査では、特に小学生以下の子どもがいる労働者は、男女ともに通常勤務よりテレワーク勤務のほうが長時間労働になる傾向が高い【図6】。

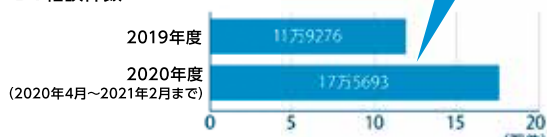
しかし、テレワークに難しさを感じる理由(下記参照)にも男女差があり、テレワークをする女性労働者への負担が大きくなっている。

- 理由 ①子どもの昼食準備(男性32.2%/女性60.9%)
- ②子どもが頻りに話しかけてくる(男性21.8%/女性43.8%)

また、家庭で過ごす時間が増えたことで、DV相談件数(2020年度・2月まで)は175,693件と昨年同時期の1.5倍になっている【図7】。

2020年の女性の自殺者数は前年比15.4%増の7,026人。早急な対応策が必要。

■図7 DV相談件数



注:2019年度は配偶者暴力相談センターへの相談件数。2020年度は配偶者暴力相談センターと2020年4月開設のDV相談プラスへの相談を足した件数。

(出所)内閣府男女共同参画局調べ。



湯原俊二

—緑肥の想い—

信なくば 立たず

4回目の緊急事態宣言が発せられました。3回目の緊急事態宣言が解除になってからわずか3週間後でした。これからオリンピック・パラリンピック、夏休み、お盆と人流が増える時期になります。しかし、残念ながら国民は菅政権の言うことを聞かないのではと懸念します。なぜなら安倍政権、菅政権と様々な不祥事について国民にまともに答えておらず、信頼をなくしているからです。

北欧では、政治家は信頼される職業の上位に入ります。日本と雲泥の差です。日本は、少子高齢化の中で経済も右肩上がりではなく、これから国民にとっては厳しい状況も予想されます。だからこそ国民に徹底して説明する正直で信頼される政治にしなければなりません。

マスコミの世論調査では菅政権の内閣支持率は30%を切ってきました。菅政権で解散総選挙になるのか、総裁選をし総理をかえて総選挙になるのか分かりませんが、政権交代して政治を変えましょう。

湯原さんのホームページもご覧ください

湯原俊二

検索



西部地協「第7期労働大学」
(2021.7.4)

QRコードからもつながります



湯原俊二「総がかり大作戦」

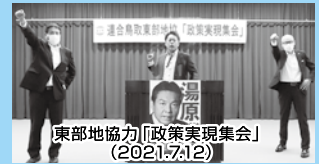
支援の輪を拡げよう!



自治労・米子市職員労働組合「代議員会」
(2021.7.1)



紙八連合・王子製紙新労働組合
米子支部青年女性部
「湯原俊二さんと気楽deトーク会」
(2021.7.1)



東部地協力「政策実現集会」
(2021.7.12)

“ザ・議員”

福間 裕隆 鳥取県議会議員

—依存症ってなあに?—

6月26日(土)、倉吉で開催された「アディクション(依存症)を語る集い」に参加しました。来賓として紹介されましたが、私はアルコール依存症の当事者として断酒会という自助(相互支援)グループでの活動を通じての回復治療を報告発表しました。

薬物、お酒、タバコ、ギャンブル、ネット、ゲームなど…。わかっていてもやめられない。それは依存症かも? 依存症は誰でもなりうる病気でコントロールできない、一人ではやめられない病気です。専門医療機関や自助(相互支援)グループ、回復支援施設等へつながり、相談や治療を続けることで回復が可能な病気です。

連合鳥取のみなさんも依存症について理解を深めてください。

「アディクションを語る集い」に参加



安達 卓是 米子市議会議員

今回の6月定例会市議会で「米子市の特別医療費助成事業で身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者への医療費助成の対象に、精神障害者保健福祉手帳2級・3級所持者にも適用拡大を求める取り組み」について質しました。

この医療費助成制度は、住民の健康保持や生活の安定などを求めるもので、県内市町村の単独事業であり、実施していない自治体間では格差が生まれていました。以前にもこの質問をしましたが、当局は実施することはありませんでした。その時、市内にある障がい者が通う作業所で家族会のみなさん達と勉強をし、以降も要望活動を続けてもらいました。

再度、本会議場で質問に挙げたところ、米子市長は市政方針に掲げて、この事業を実施する運びとなり、市条例の一部改正や扶助費を補正予算に計上されることとなりました。

議会の様子



私は8月生まれだが、幼いころ8月はあまり好きではなかった。原爆、終戦、お盆。どちらかといえば祝うというより亡くなられた方と交わる時期との印象が強かったからだ。しかし成長するにつれて、それらが「過去の過ちを忘れない。先人の記憶を次世代へ伝える」とための大切な営みであることを知った。▼今では「知る」だけでなく、「同じ轍を踏まなければならぬ」と思う▼特定秘密保護法、集団的自衛権行使容認、共謀罪、デジタル監視法…これらは誰を守るためのものなのか。あげく、森・加計、桜の会、コロナ対策では私たちの問いに答えなければかりか、さざ波発言で命を軽んじる現政権の本性が透けて見えた▼「それなりに生活できていくから」何もしていないではまずい。私達には先人から受け継いだ今を次世代へ着実に手渡す責任がある。だから政権そのものを替えるため、声を上げ体を動かすのだ。じりじりと照りつける太陽を仰ぎ見ながら、生きたいという願いが無残に断たれた76年前を思う。(きんた)

てんぐんぐんぐん

